

AIP センターの今後の在り方に関する検討について

令和 6 年 1 月 25 日
科学技術・学術審議会
情報委員会

1. 経緯

- 理研 AIP センターは、世界最先端の研究者を糾合し日本の AI 研究開発力を底上げする拠点として、平成 28 年度（2016 年度）に理化学研究所に設置。10 年プログラムの補助金事業として開始されており、令和 7 年度（2025 年度）末をもって補助金交付期間が終了する予定。
- プログラムの終期が迫るなか、AIP センターの今後の方向性が明示されていないため、新たなプロジェクトへの着手や研究員の円滑な雇用が難しくなっていることから、今後の方向性を早急に示すことが求められている。
- 事業開始 9 年目を迎える今、世界の AI 開発の動向を踏まえつつ、AIP センターが今後果たすべき役割を再確認し、具体的な研究開発の内容及び実施体制を早期に検討する必要がある。

2. 検討における論点

- 現 AIP センターの顕著な成果を継承しつつも、AI が抱える新たな課題に対応すべきではないか
- 現 AIP センターにおける組織運営上の課題を踏まえて今後の在り方を検討すべきではないか
- 新しい技術潮流が生まれた際に、機動的に対応できるような枠組みを AIP センター内に作ることを検討すべきではないか
- 個々のチームリーダーの研究を尊重しつつも、社会の動向を踏まえミッションを発展的に見直し、AIP センターとしての研究目標をさらに明確にすべきではないか
- AIP センターにおいてどのような人材を育成するのかその方針や対象を明確化すべきではないか
- これまでの成果を踏まえ、AIP センターが築き上げた国の AI 研究のハブとしての機能や、世界からのビジビリティを維持するための役割を、令和 8 年度以降も引き続き理研 AIP センターが果たすべきではないか
- その場合、理研に設置されていることによる理研全体の研究開発への波及効果を創出するため、理研内でも AI 研究の総括的な位置づけを付与し、各センターとの連携や助言機能などを可能とする体制とすべきではないか
- AIP センターの事業期間について、理研の中長期目標期間を考慮しつつ検討すべきではないか

3. 検討スケジュール

- 1 月 25 日 AIP センターの今後の在り方を検討する際の論点について議論（本日）
- 2 月 26 日 理研よりこれまでの成果および AIP センターの今後の在り方について説明、
AIP センターの今後の在り方について議論